軽井沢で出会ったきのこ

淵澤 功

５年前の秋、勤め時代の友人が定年後に北軽井沢の別荘に移ったので、在京の友人の誘いがあって仲間３人と彼の別荘を訪問する機会がありました。

私はきのこに興味を持ってまだ日が浅く、主に低地の里山をフィールドにしていたので、低地では見られないきのこに出会えることを楽しみに参加しました。

９月初旬の２泊３日の逗留の間、仲間と温泉巡りや観光地に出かけましたが、時期が良くてきのこの発生が多く、また初めて見るきのこが多く私には新鮮な驚きでした。

予備知識として軽井沢は駅周辺でも標高が 1,000m 近く、山地で 1,500m 前後はあるので、平地と植生が異なり、カラマツやシラカバに代表される木々の樹下に図鑑でしか見ていないきのこが見られることを期待していましたが、実際に目にしたきのこの顔ぶれの違い様は想像以上でした。

初めて見るきのこが多いため、皆と行動中もきのこが気になっていつも遅れがちになり、後ろ髪を引かれる思いで皆に追いついたことも度々でした。

その時はいつもやっている下界での探索よりドーパミンの出方が数倍で、再度訪れたい気持ちを強く感じ、その年の 10 月の初旬と下旬に再度一人で訪れました。

それ以来夏から秋にかけて毎年３回泊まりがけで出かけ始め昨年で５年になります。

軽井沢は日帰りではちょっと距離がありますが、新幹線を使えるので、千葉方面から奥多摩や富士山方面に出かけるのよりずっと便利な気がします。東京からの乗車時間はほぼ１時間なので、早起きをして出かけると、現地での行動が午前の 10 時前後に可能になります。

初回のメンバーに探鳥の趣味で軽井沢に明るい友人がいたので、いろいろ散策コースを教えてもらい、これまでに小浅間山登山道、峰の茶屋から旧三笠ホテル近くまで続く信濃路自然歩道、自然歩道途中の小瀬温泉から星野温泉に通ずる小瀬林道、星野温泉近くの野鳥の森などのハイキングコースと旧軽の別荘地を主に歩きました。

以下この間に出会い、私が低地で見られなかったきのこについて少し記してみたいと思います。

自分の勝手な思いこみもありますが、初めて出会ったきのこで種名の分かるものを 50 音順にあげると以下のようになります。

初めて出会ったきのこ

アイシメジ、アオイヌシメジ、アカツムタケ、アカヒダササタケ、アカモミタケ、アキヤマタケ、アシベニイグチ、アミハナイグチ、イロヅキタケ、ウスタケ、エセオリミキ、オオイチョウタケ、オオキツネタケ、オオツガタケ、オシロイシメジ、オツネンタケモドキ、カイメンタケ、カメムシタケ、カヤタケ、カラマツベニハ

ナイグチ、キイロスッポンタケ、キサマツモドキ、キチャハツ、キヌメリガサ、キホコリタケ、クマシメジ、コショウイグチ、コチャダイゴケ、サカズキカワラタケ、シロヌメリイグチ、シワカラカサタケ、シワタケ、スギヒラタケ、センボンクズタケ、ダイダイヒメノカサ、タヌキノチャブクロ、チャナメツムタケ、ツキヨタケ、ツバヒラタケ、ツリガネタケ、ニカワハリタケ、ヌメリツバイグチ、ハツタケ、ハナイグチ、ハナビラタケ、ヒイロチャワンタケ、ヒメダイダイタケ、ヒロハチチタケ、ヒロメノトガリアミガサタケ、フチドリツエタケ、ブナシメジ、ベニテングタケ、ホテイシメジ、マスタケ、ムキタケ、ムラサキホウキタケ、モエギビョウタケ、ヤマイグチ、ロクショウグサレキンモドキ

印象に残ったきのこ

このうち印象に残ったいくつかのきのこを写真を添えてあげてみます。

アオイヌシメジ
野鳥の森近くの渓流沿いで見かけた中型菌。青みがかった透明感のある何とも不思議な色合いのきのこ

アカヒダササタケ
別荘地のカラマツ樹下で度々見かけた小型菌。ヒダが特徴ある濃橙色だがしばらく種名が分からなかった。傘は黄を帯びた繊維状の褐色。

ウスタケ
低地ではみられない形状と色合いで、別荘地で夏の間、長期間目を楽しませてくれた。

カメムシタケ
２度出会え、写真の渓流沿いで見たものの宿主は山地で多く見られるツノアオカメムシ。半露出状態で子実体頭部が鮮やかな橙色なので気がつきやすかった。

キイロスッポンタケ
信濃路自然歩道の下の起点近くの渓流沿いにスギヒラタケが良くでる倒木群があるが、一昨年の７月初旬倒木上から数本発生していた。スッポンタケより小型。写真は菌蕾を自宅で成長させたもの。

サナギタケ
低地でも何度か見ていたが、４年前の７月下旬は発生数が多く、子実体が大きくて遠くからも目についた。特に白糸の滝へ下る斜面は多く発生していてツボ状態だった。

シワカラカサタケ
別荘地のカラマツ樹下の苔の中で見た時は一瞬地中材から出たヒメスギタケの仲間と思った。PC 上で拡大して見ると傘に刺でなく皺があることが分かった。

ツバヒラタケ？
信濃路自然歩道の渓流近くの広葉樹にここ数年 10 月に発生している。情報の少ないきのこなので判断できないが、写真の個体は傘径 17㎝、柄の直径 5㎝、全体白色でヒダは密。傘縁と柄に毛があり、ツバは消滅したのか見られなかった。水気があり重く幼菌の傘は強く内巻き。

ハナイグチ
９月から 10 月にかけどこでも沢山見られた。地元ではジゴボウと呼ばれて人気があり、明るい色合いと傘に強いぬめりがあり同定しやすい。食べても良しで、軽井沢を代表するきのこのように思われる。

ハナビラタケ
信濃路自然歩道で遠くの松の根本に見え、道を外れて寄って見ると幅 25㎝の中型菌だった。

ヒロメノトガリアミガサタケ
アミガサタケは春のきのこであるが、７月中旬白糸の滝の前の斜面に単生しており、高さは21㎝あった。

ベニテングタケ
もっとも見たいと思っていたきのこだったが、初年度に数本見ただけで、その後出会ってない。黄色みの強い個体群だった。

マスタケ
夏から秋にかけ見る機会が多かった。新鮮なものの傘面は鮮やかな橙色で遠目にも良く目立った。下面は白色。

別荘地のきのこ

山地を歩くには、それなりの時間と熊対策が必要ですが、観光のついでに別荘地のきのこを探索するのも手軽なので最後にお勧めします。

特に旧軽からの三笠通りの五本松バス停から先はカラ松の並木が続き、下草が整備された別荘地と道路の境界には沢山のきのこが見られます。

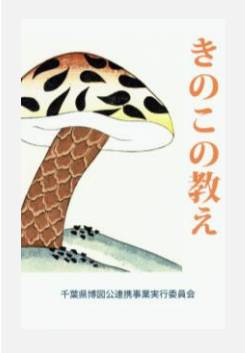
残念ながら、軽井沢で出あったきのこで私の知識では種名の分からないきのこが PC アルバムには沢山あります。しかし出会いを重ね経験をつめばそのうち分かることを期待してこれからも軽井沢探索を続けたいと思っています

また勤め時代は一時、仕事等で軽井沢には年に数回来ていたのに、きのこの記憶は皆無です。それがどういう巡り合わせかこれほど楽しく夢中になれる趣味に出会えたことを大変幸せに思っています。

❐

［図書紹介］

■きのこの教え



企画・制作・著作・発行者：千葉県博図公連携事業実行委員会、執筆：吹春俊光、編集：原田浩、2018 年 3 月 1 日、27 頁、非売品

千葉県博図公連携事業実行委員会の平成 29 年度のテーマ「きのこ・菌」の一環としておこなわれた千葉県立中央博物館の企画展示『きのこワンダーランド』の概要をふまえ、1. きのこの生物学、2. 食べるきのこと毒きのこ、3. 房総ときのこ、の３本建てでわかりやすく解説したきのこの入門書。

千葉県の菌類の目録作りに約 30 年参加している、本会の紹介もあります。(公)